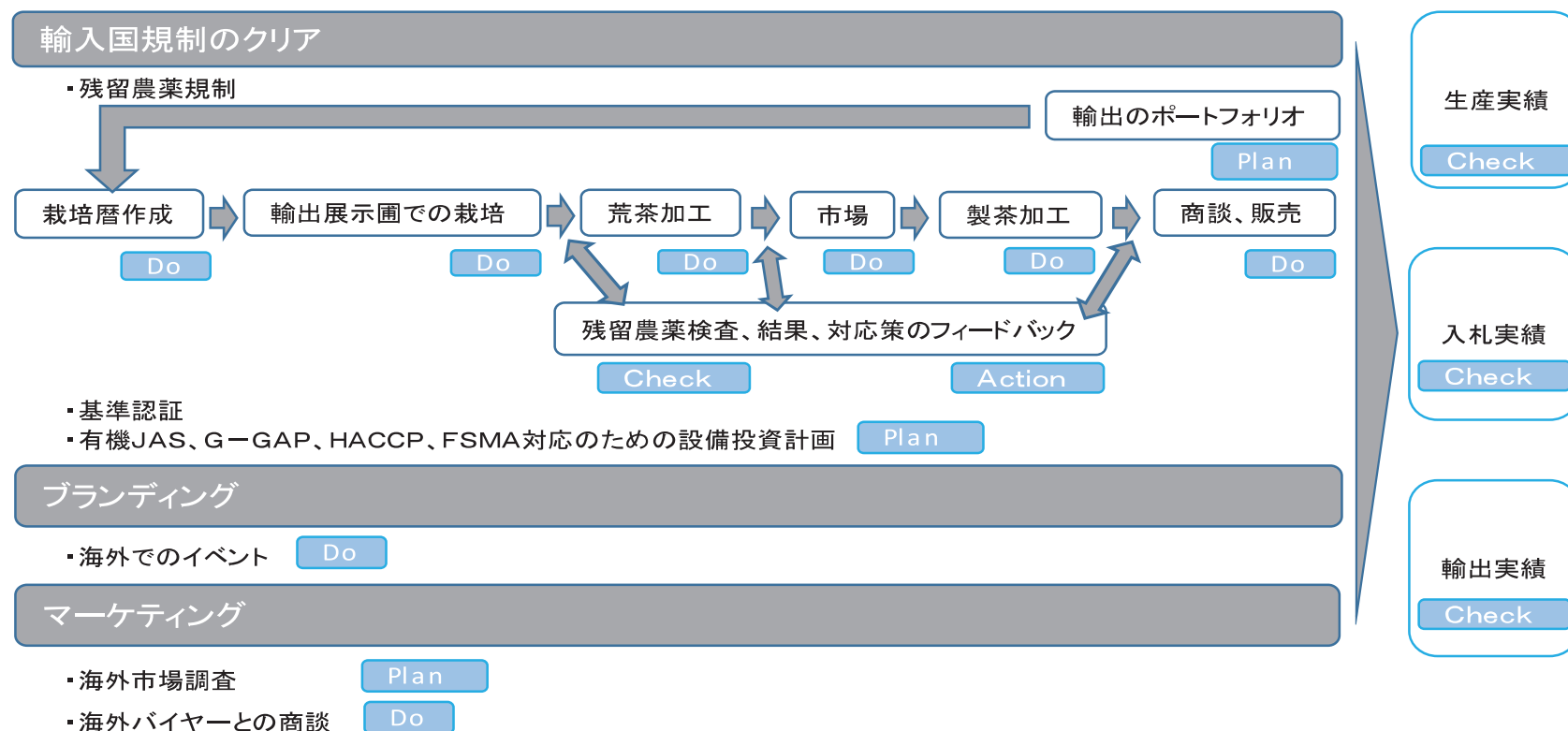


6. 検証体制

- 今回策定した、GFPグローバル産地計画をより実現性確かなものとするためには、継続的なPDCAサイクルの検証が不可欠である。本協議会では、PDCAを以下のとおりアクションに位置付け、具体的にイメージを共有するとともに、進捗状況を適切に把握するべく、体制を構築する。



連携機関

【ジェットロ佐賀】

2015年度以降、うれしの茶海外販路開拓新業務を嬉野市より委託。ジェットロは国内外約130の拠点を有しており、海外販路開拓におけるノウハウを持つ。また、各種補助金事業の実施ノウハウも有しており、事務遂行能力も高い。

海外プロモーションイベントが単発で終わることなく、うれしの茶を通じた海外パートナーとの定期的な交流、また、個別商談機会の提供や、貿易実務に係る指導を受けることで、強固な商流を構築することを目指したい。

さらには、肥前吉田焼や嬉野温泉など観光資源とも連携した地域全体の活性化につなげていく仕組みづくりにも、市内関係者、県や国とも連携し着手したい。ジェットロ佐賀にはその橋渡し役を期待する。

【合同会社ブランドスケープ】

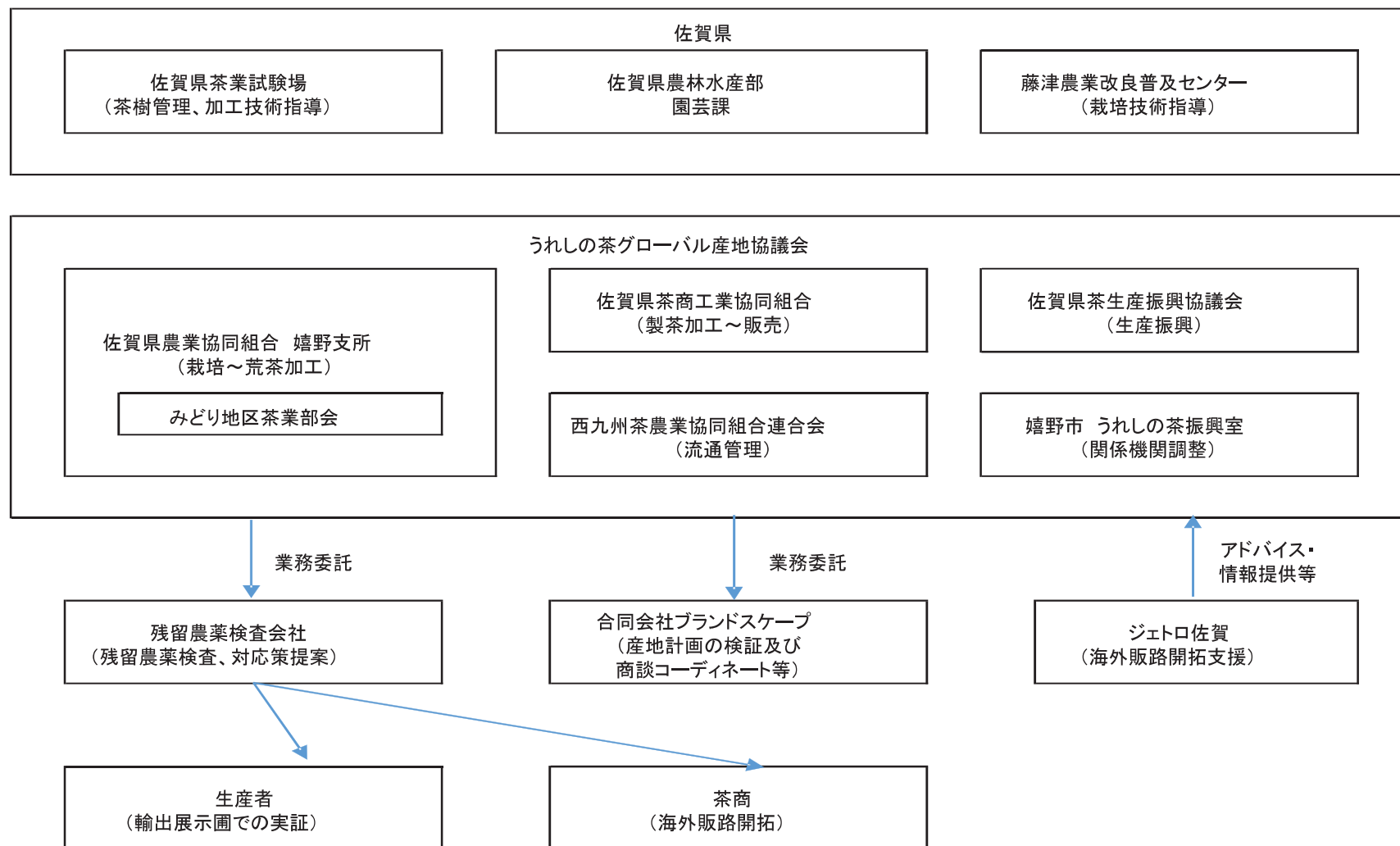
国内各所にてGFPグローバル産地計画策定の実績を有し、茶生産現場、海外市場の両方に精通しており、的確な計画・PDCAサイクルの検証を期待する。

うれしの茶との関係においても特許庁補助事業「地域団体商標海外展開支援事業」の担当ブランドプロデューサーを務めており、現在のうれしの茶の輸出戦略の基礎を固め、ハンズオン方式にてシンガポール等の市場を開拓してきた実績を有する。

嬉野市内茶商との関係も深く、海外バイヤーとも広いネットワークを有するため、計画策定にとどまらず、計画の見直しは勿論、実際の販路拡大にむけてのバイヤーとのマッチングや、新規市場開拓、商品開発、現地プロモーション戦略等においても伴走支援を期待する。

農林水産省 GFPグローバル産地づくり推進事業
(北海道米・十勝清水にんにく)

7. 事業の組織体系図及び連携体制図



実施体制図

8. GFPグローバル産地計画実施スケジュール

[illegible]

9. GFPグローバル産地計画の関連事業計画

【持続的生産強化対策事業を利用した茶の改植】

- ・茶樹の樹齢が古くなってくると品質および収量が低下してくるので、定期的な改植を推進し、安定生産に努める。
- ・多種ある品種の中で、こういった品種が海外で好まれるのか検証を行い、海外に見合った品種を選定する。

10. 輸出する農林水産物・食品の現状及び目標

		現状 (2018年度)	目標年 (2023年度)	備考
嬉野市	輸出額(円)	4,086,000	40,355,000	
	輸出量(t)	0.3	5.2	
	輸出先地域・国	EU 北米 アジア	EU イギリス 北米 中東 ASEAN 旧ソ連圏 台湾	
	生産量(t)	630	570	

うれしの茶の地域別輸出額計画

(単位:円)

輸出対象国	2021年度	2022年度	2023年度
EU	4,500,000	9,000,000	13,500,000
イギリス	150,000	150,000	165,000
北米	600,000	1,600,000	3,110,000
中東	500,000	1,000,000	2,000,000
ASEAN①(先進国)	2,500,000	4,500,000	4,950,000
ASEAN②(中進国)	1,000,000	2,500,000	5,000,000
旧ソ連圏	1,500,000	4,000,000	8,000,000
台湾	200,000	300,000	330,000
間接輸出	2,000,000	3,000,000	3,300,000
合計	12,950,000	26,050,000	40,355,000

11. 担当・連絡先

都道府県の担当者名及び連絡先	都道府県名	佐賀県
	氏名(ふりがな)	青木 陽(あおき よう)
	所属(部署名等)	佐賀県 農林水産部 園芸課
	役職	花き特産担当 技師
	電話番号	0952-25-7119
	FAX	0952-25-7308
	E-mail	aoki-you@pref.saga.lg.jp
申請者の担当者名及び連絡先	申請者名	うれしの茶グローバル産地協議会
	氏名(ふりがな)	森 尚広
	所属(部署名等)	事務局
	役職	事務局
	電話番号	0954-42-3308
	FAX	0954-42-3300
	E-mail	chagyou@city.ureshino.lg.jp